

まちづくり活動支援事業を紹介します

市は、市民団体が自主的に行うまちづくり活動に必要な経費を一部助成する事業を実施しています。この事業は、市民団体の創意工夫により地域や市全体を元気にするもので、団体の会員以外に広く市民が参加できる活動が対象となります。市民が主役のまちづくりを推進するため、ぜひご活用ください。

くわしくは 地域振興課 市民協働推進係 ☎21-5147

対象の活動・事業

- ① 地域福祉を推進する活動
(例：住民交流イベントなど)
- ② 環境整備を推進する活動
(例：緑化活動など)
- ③ 文化振興を推進する活動
(例：祭や地域文化事業など)
- ④ 前各号に掲げるもののほか、市長が特に必要と認めた活動

対象団体

- ・ 団体の規約を設けていること
- ・ 構成員がおおむね10名以上であること
- ・ 市内で継続して活動を行っている、または今後継続した活動が見込まれること
- ・ 市が実施する他の事業、または制度による運営費補助金、その他これに類する補助金を受けている団体でないこと

補助金の額

- ・ 次の額のうち最も低い額(千円未満切り捨て・補助上限額20万円)
- ・ A 事業対象活動に要する補助対象経費の3分の2以内の額
- ・ B 事業総額から事業収入を引いた額

補助の回数

- ・ 1 市民団体につき、年度中1回限りとし、3回まで

平成29年度事業の一部を紹介いたします

①「鬼怒川温泉のんびりポタリング」の開催

鬼怒川温泉で初の開催となるポタリング(自転車)イベント。当日は、小雨が降る曇り空でしたが、関東地方はもとより、関西地方からも参加があり、31名の参加者が温泉街の街中をのんびり散策しました。会場にはゆるキャラのキャラクターも来場し、子どもから大人まで楽しめるイベントになりました。



②「日光こころ桜祭り」の開催

小代地区の良さを広く周知し、来訪者を増やすことにより、地域の活



力を底上げし、関わる人々の和をつくるための事業として「日光こころ桜祭り」を開催しました。会場は「旧駅舎と大桜」の風情ある小代駅周辺で実施し、お花見、音楽イベント、地域名産の軽食販売、地元案内など、小代の良いところを多くの人に感じてもらいました。

紹介した活動以外にも、地域の実情を知り地元に着目し、市民団体の皆さんのアイデアから生まれた活動がたくさんあります。皆さんも仲間同士で温めているすてきなアイデアを実現させてみませんか？

ダムを生かしたこんな取り組み！ 皆さんはご存じですか？

くわしくは 地域振興課 地域振興係 ☎(21)5147

市には、鬼怒川上流にある五十里川、川俣、湯西川の4つのダムをはじめ、多くのダムがあります。

ダムは、水資源の確保や発電といった本来の役割に加え、防災や周辺地域の活性化といった効果も併せ持つ貴重な地域資源です。

今回は、ダムを生かしたさまざまな取り組みをご紹介します。

★水陸両用バスでダム湖探検ツアー(湯西川ダックツアー)

道の駅「湯西川」と水の郷の2力所を発着場所として、湯西川ダムの施設見学と湯西川ダム湖のクルージングをするツアーです。春の新緑から秋の紅葉まで、四季折々の眺望を湖面から楽しむことができます。陸路から湖にバスが侵入するときのワクワク感



「湯西川ダックツアー」バスが湖に侵入

は格別です。問合せ先：湯西川ダックツアー ☎(78)0345

★鬼怒川上流4ダム見学会

普段入ることのできない、五十里川、川俣、湯西川ダムの内部を見学できるイベントです。見学の他、スタンプリーもあります。今年7月29日(日)に開催します。貴重な体験をしてみませんか。

問合せ先：国土交通省鬼怒川ダム統合管理事務所 ☎028(66)1341

この他、市内の小学生と下流域の小学生と一緒にダム見学や魚のつかみ取りを行う上下流交流会をはじめ、地域おこし協力隊が企画しているダムツアーなど、多くの事業を実施しています。



「上下流交流会」魚のつかみ取り

皆さん、これを機会に、ぜひダムに足を運んで、ダムの魅力を体感してみませんか？注目のダムカードも配布しています！

日光市手話言語条例

くわしくは

社会福祉課 障がい福祉係 ☎(21)5174

①「聞こえない人の世界」

私たちは、音が聞こえることを当たり前に生活しています。例えば、「ジリリ」の目覚まし時計の音、「ピンポン」の呼び出し音、「ワー、ワー」のサイレンの音など。しかし、耳の聞こえない人たちはどのようにしているのでしょうか。目覚まし時計は、振動で知らせられる時計を使用し、玄関の呼び出しなどは、光で知らせるライトを使用しています。

このように音に代わる方法を自分で工夫することもできますが、いろいろな場面で困ることがあります。例えば、道を歩いているとき、声を掛けられたり、車のクラクションに気付かず、危険回避が遅れるなど、命に関わることもあります。

②「私たちが聞こえない」

聞こえないことは外見からわからないため、困っていることに気付かず、通り過ぎてしまうかもしれません。また、聞こえない人だけでなく、外見では分からなくても、障がいがあることで困っている人がいるかも

を制定しました



(第2回) 5～7月号連載

③「声を掛けてください」

ろう者に会ったときには、手話で「こんにちは」のあいさつを、また、不安そうな人を見かけたら「何かお困りですか?」の声掛けをお願いします。この「気持ち」と「声掛け」が、聞こえる人と聞こえない人の、障がいのある人となんか、そして全ての人の「コミュニケーション」のきっかけとなり、お互いが理解し助け合うための大切な第一歩になるのです。

④「ワンポイント手話」

「何かお困りですか?」



さきとしかず 佐々木俊一副主幹



指をクルクル回す 小菅百恵副主幹

表情も重要です